まじわり 142 号

2012 年 12 月 23 日発行

【巻頭言】『御子による救い』

司祭　バルナバ　菅原裕治

ヘブル書の一章五節から二章四節までは、神の御子であるイエス様と、御使い・天使が比較されています。それはイエス様がメシアすなわち救い主であること、そして同時に神の子であることをどのように捉えたらよいか、またそのことは天使たちなどの存在とイエス様とがどのように違うのかという疑問があったからです。また、この世界で罪の許しを行うのは、神の代理としてそれを行う人間である祭司の職務ですが、祭司ではないイエス様が、なぜ罪の清めの業をなされたのかという疑問もありました。ここでは、それらの問いについて答えています。イエス様に関する事柄は、聖書（旧約）の記述と矛盾するものではなく、むしろ聖書の精神がそのことを証していると述べられているのです。

この天使（御使い）とイエス様の比較ですが、天使は、旧約聖書においても新約聖書においても神様と人間との仲介的役割を担う存在です。クリスマスの物語にある、マリア様への受胎告知などを想起するとわかります。しかし天使はあくまで仲介者に過ぎず、肉体をとり罪の清めの業を成就したイエス様とは異なります。また天使は一時的な存在ですが、御子であるイエス様は、神様と同じく普遍です。まずそれらの違いが、一章で旧約聖書を七つ引用して述べられています。ヘブル書を含めて、新約聖書の著者たちの時代、聖書とはもちろん旧約聖書とその続編を意味します。またギリシア語訳された旧約聖書が用いられていました。それ故、ヘブライ語聖書から翻訳されている私たちの旧約聖書と現在の新約聖書に書かれている文言とは少し異なります。そのことを念頭に置いて、いくつかを挙げてみますと、一章五節にある「あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ」という部分は、詩編第二編七節の「お前はわたしの子　今日、わたしはお前を生んだ」からの引用、また一章八節の「神よ、あなたの玉座は永遠に続き、また、公正の笏が御国の笏である」という部分は、詩編第四五編七節の「神よ、あなたの王座は世々限りなく　あなたの王権の笏は公平の笏」からの引用だと思われます。確かに細部は少し異なりますが、ヘブル書の著者は、このように聖書を根拠にして、御子であるイエス様は、天使たちとは全く異なる存在であることを主張しているのです。

二章に入りますと、著者は、「だから、わたしたちは聞いたことにいっそう注意を払わねばなりません。そうでないと、押し流されてしまいます」と述べます。それは一時的存在である天使たちと、神の御子であるイエス様とは決定的に異なるのであるから、信仰の先輩たちが体験し、伝えた（自分たちは聞いた）イエス様によってもたらされた救いの出来事を、しっかりと心に留めることの重要性を語ります。その心に留めるべき勧めは三つあります。

第一は、「この救いは、主が最初に語られた」（二・三）ということです。これは神を通し

て御子である主によって、初めて言葉と行為とを伴った救いが語られたという意味です。イエス様の生涯、特に十字架の死という実体を伴った歴史的出来事を通して、罪の許しという救いは成立します。そしてその出来事の上に教会は成立するのであり、また主の救いの実体があるのです。

第二は、「それを聞いた人々によってわたしたちに確かなものとして示された」ということです。イエス様と共に歩んだ人々から、イエス様のことを聞いた人々、そしてその人々から聞いたヘブル書の著者たちと読者たち、この関係は、信仰の伝承に参与するという意味で、「聞くこと」の重要性を意味しています。「伝承を聞くこと」、信仰の伝承とは、単なる知識や情報の伝達ではなく、聞いた人々が、聞いた伝承に参与し、そしてそれを各個人の歩みを超えて、教会の交わり、教会の歩みとして実体化するような、人格から人格への伝達であることを意味しています。この伝承を通して教会は過去・現在・未来を通した救いの共同体として存在し得るのです。

第三は、「神もまた、しるし、不思議な業、さまざまな奇跡、聖霊の賜物を御心に従って分け与えて、証ししておられる」（二・四）ということです。神様は、イエス様の出来事だけではなく、今もしるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、聖霊を信じる人々に御心に従って賜うのです。そしてそのことを通して罪の許しの救いを明かし続けられるのです。つまり聖霊を通していつでも信仰者には罪の清めが保証されているのだと著者は語っているのです。

今年も間もなくクリスマスを迎えます。クリスマスは、御子イエス・キリストの誕生を喜び祝うことです。それは救いがこの世界に誕生したことを、改めて確認することです。この箇所と照らし合わせて言えば、クリスマスの物語そのものが、イエス様と天使たちが異なること、そしてイエス様のご生涯という歴史的出来事の最初から、聖霊による救いの実体が存在することを示しているのです。御子を通して、神の力は常に教会において、私たちをつなぎとめる中心に向かって、今もなお働いています。そのことをクリスマスの喜びとして確認しあいたいと思います。